



NPO法人

フキックス・コルプス

NPO法人フキックス・コルプスは葺合高校の教師及び卒業生により設立され、グローバルな人材育成を目的として活動しています。今回のFUKIX NEWS第13号では、2022年3月に葺合高校を卒業し、現在神戸市外国語大学国際関係学科4年に在籍し、模擬国連の活動を続けてこられた橋本橋花さんにインタビューを行いました。

INTERVIEWER: 浦田 萌香 (京都外国語大学国際貢献学部1回生・国際科 2025年3月卒)

### ■進学先に神戸市外国語大学を選んだ理由、また、大学で力を入れて学んだことを教えてください。

将来、英語を活かしてグローバルに活躍できる仕事に携わりたいと考えていたためです。神戸市外国語大学では言語としての英語だけでなく、特に国際関係学科では多様なコース専攻を通じて国際社会を幅広い視点から学べる点に魅力を感じました。さらに、ハイレベルな英語力を発揮できる模擬国連世界大会に参加できる環境が整っていることも、大きな決め手になりました。

### ■大学で力を入れて学んだことを教えてください。

私は国際関係学科に所属し、「social justice (社会正義)」をテーマとするゼミに参加しています。学科では、国際機関の役割や特定の国際問題を扱う講義を中心に、英語で行われる授業を積極的に受講してきました。ゼミでは、人種やジェンダーなどに関わる社会的不平等や差別を批判的に考察し、公平で包摂的な社会のあり方を探究しています。その中で私は特に「メンタルヘルス」を研究テーマとし、社会に根付く偏見がどのように形成され、再生産されているのかを分析しています。メンタルヘルスを社会的課題として捉えることで、より多面的に社会正義を考える力を養うことができました。



### ■大学で力を入れた活動である「模擬国連」について教えてください

模擬国連の大会はNMUNとJUEMUNの主に2つがあります。NMUNは世界最大の学生模擬国連会議で、唯一国連に認められているものです。毎年10人程度学内選考を経て派遣され、ペアを組んで各UN委員会での一国大使を担当します。約3,000人が参加する春のNY大会、約300人が参加する秋の国際大会の年2回開催されています。JUEMUNは日本の大学生が主に参加しており、近年は海外の学生も多く参加しています。各大会によってSDGsに基づく異なったテーマが設定されています。昨年は議長として参加した時は、「持続可能な開発のための教育」というテーマでSTEM教育やAIの倫理的な利用と教育での開発などが話し合われました。

### ■模擬国連の魅力をお願いします

一番の魅力は、大会の度に自分の成長した部分とできなかった部分の両方を見つけることができるので、現状に満足せず成長し続けられる点です。また、海外で活躍しておられる方との出会いも魅力の一つです。大会に出るための大学の授業で、外務省の方と話す機会を得たり、大会でニューヨークに行った時に、UNDPやワールドバンクを訪問したり、国連で外交をしている方とお話ししたりすることができました。

### ■NMUNには予選はあるのですか？学内選考はどのような流れで行われるのですか？

予選は特になく、出られる大学が決まっています。学内選考は、書類と面接で行われます。面接では志望動機、過去に参加経験のある人は次の大会での目標や「先輩がやる気をなくしてしまったら？」「ペアやチームで行き詰ってしまったら？」など起こりうるリスクにどのように対処するかについても質問されます。

### ■模擬国連の活動を行う上で大変だったことは何ですか？

普段の大学の授業、個人で行う事前リサーチ、ペアや先生とのミーティング、大会経験者同士の話し合いなどやるべきことが多くあるので、タイムマネジメントに苦労しました。また、模擬国連に出る人が履修しなければならない授業があり、普段は週1回、長期休暇期間は週2回受講しなくてはならなかったことや、質の高いリサーチをコンスタントに続けることを要求されることが大変でした。あまりにも大変なので大会に1度出ただけでやめてしまう人も多かったです。自分自身も一度くらい大会に出なくてもいいだろうと休んだことがあったのですが、結局出ればよかったと後悔している自分に気づきました。またNYで行われた大会に出場した際に2,000人の参加者がいて、そのうち日本人はたったの5%でそのほとんどが神戸市外大の学生で、日本人に対して意見を求めてもらえなかったりして、そもそも同じ土俵に立てていない気がしたこともありました。私たち日本人がマイノリティであることが当たり前の世界であることを実感しました。

### ■模擬国連で自分自身が成長したと感じた瞬間はありますか？

初めて大会に参加した時は人見知りしてしまい、自分の意見が言えず、準備してきたものを発揮できませんでした。参加者の9割が海外の人で次々に意見を述べていて、自分が発言している時にも自分の発言にかぶせるように意見を主張されることに怖さを感じました。その大会を終えてからは、人見知りせず意見を主張したり質問したりすることが自分の目標になり、質問練習などさらなる準備を重ねてドイツ大会に挑みました。しかし大会初日に熱を出してしまい参加できませんでした。2日目の午後から参加することになりました。周りの参加者はほとんど意見を出し終わりお互い顔見知りになっている中、自分だけ初対面で意見も出せていない、意見を出してもほとんど興味を持ってもらえませんでした。その日のフィードバックで、他のメンバーは2日間で準備したものを発揮できているのに自分だけ何もできていないことが悔しくて、今までの人生で最もしんどい時間でした。代表の人が、最終日でできる小さな目標をたくさん立てよう、と言ってくれて3日目に挑みました。3日目に他のチームのあまり意見を出せていなかった人と一緒に協力して提出した案が評価され、最終的にその大会で一番いい賞をもらうことができました。この経験は自分を大きく成長させてくれたと感じています。

### ■就活と今後のキャリアビジョンについて教えてください

面接では模擬国連と葺合のなぎなた部で部長をした経験を通じて培った「協調力」と「リーダーシップ」を高く評価していただくことが多く、大きな強みになったと感じています。

卒業後はコンサル系の企業に就職します。クライアントのマネジメントを行う企業です。仕事の中で英語をスピーキングで使うという条件で仕事を探し、海外のクライアントのみを扱う部署に配属される可能性の高い内定をいただきました。

### ■普段から大切にしている考え方などはありますか？

チームワークを発揮しなければならない場では「周りをよく見て、だれも置いていかない」、全員が気持ちよく活動できる場を作る意識を持つように心がけています。できなかったことや、つまづいたことは放置せず改善することも大切にしています。



### ■葺合高校で頑張っていたこと、葺合高校で学んでよかったと思えることは何ですか？

葺合高校では「課題研究」に力を入れて取り組みました。ひとつのテーマに沿ってリサーチを行い、英語で分析・考察する過程を通して、リサーチ力やライティング力を大きく伸ばすことができましたと感じています。私は「貧困と教育」をテーマに研究を行ったのですが、国際的な課題を扱ったことで、世界に目を向けるきっかけにもなりました。

また、コロナ禍の中でも「トビタテ！留学JAPAN #せかい部 ✖ SDGs探究プロジェクト」に参加し、オンラインのワークショップを通じて多様な視点から研究テーマを学べたことも大きな財産です。

部活動では、なぎなた部に所属し、部長を務めました。コロナ禍で大会は減りましたが、練習環境を工夫し、部員が継続的に取り組めるようにトレーニングメニューを考案しました。部全体をまとめる立場を経験したことで、状況に応じて柔軟に対応し、仲間を引っ張っていくリーダーシップを培えたと思います。

### ■葺合生に向けてメッセージをお願いします

今やっていること、これからやることは将来絶対に役に立つので全力で取り組んでほしいです。壁にぶつかったときには乗り越える努力をして、高校生活を楽しんでください。

模擬国連に興味がある人はぜひ神戸市外大へ！